

令和6年度版 小学校道徳「きみが いちばん ひかるとき」のご使用にあたって、学校図書の教科書から採択変更となりました場合、以下の教材が重複することになります。

移行措置資料（指導者用資料／児童用差し替え教材）をご用意いたしましたので、適宜ご活用くださいますようお願い申し上げます。

06版 光村図書	移行措置	理由
4年 P.142～P.149 「28 花さき山」	「周りを見つめて」に差し替える。	02版 学校図書 3年に「花さき山」が掲載されており、教材が重複するため。

周りを見つめて

【内容項目】D 感動、畏敬の念 【主題名】美しいと感じるもの

ねらい

生活の中で「美しいな」「きれいだな」と感じるものを友達と伝え合う活動などを通して、さまざまな感じ方や感動に共感させ、自然の美しさや人の心の気高さを感じる心を大切にしようとする心情を育てる。

ねらいとする道徳的価値について

感動する心や畏敬の念は、美しいものや崇高なものなど人間の想像を超えたものとの関わりにおいて育まれていく。

現代は、便利さや快適性を追求し、科学技術の発展が万能であるかのように錯覚してしまう。いっぽうで、人間の力では説明することのできない自然の力や美しさにふれること、また、現代の人間の考えが及ばない文化的な遺産などに対する尊敬や畏敬の念をもつことによって、私たちは、人間性を高め、よりよく生きていくことができる。この感動する心や畏敬の念を育むためには、学校においても自然体験活動や芸術

授業の導入とてびきの分析

授業の導入

君は、どんなものを「美しい」と思った？

児童にこれまでの体験を想起させる投げかけである。過去の経験や、「学びのじゅんぴ」で用意してきた各自の「美しいもの」を改めて想起させる。「学びのじゅんぴ」の活動では、端末のカメラ機能で対象を撮影してくることも考えられるが、各学校の端末運用のルールで適宜工夫されたい。

考えよう・話し合おう

美しいと思うものについて、考えましょう。

可能な限り、授業の前までに「学びのじゅんぴ」で、日常生活の中から美しさを探す活動をしておく。授業では、自分が何を美しいと感じているのか、友達に伝えることで、美しさを感じる自分の心に気づかせる。また、友達の感じる美しさを聞くことにより、美しさを感じる心の相違に気づかせ、視野を広げさせる。

●あなたが見つけた「美しいもの」について、次の二つの□□□□に書きましょう。書いたことを、友だちとつたえ合いましょう。

- ① 美しいと思ったものは、何ですか。
- ② 友だちにつたえたい美しさは、どんなところですか。

自分が見つけた美しいものを言語化して友達に伝えることで、自分の感じている美しさを自覚させる発問である。「学びのじゅんぴ」で用意した「美しいもの」については、事前に記入しておくことが望ましいが、準備ができていない児童には、調べたり考えたりする時間を確保するなど配慮をしておく。

伝え合う際は、教室のICT環境を生かして活動するとよい。交流の方法としては、各端末に各自が写真を表示させ、グループで見せ合うほか、共有のフォルダに全員の写真を入れ、全体で閲覧可能な状態にしておく形もある。共有フォルダに入れておくことで、教師が電子黒板に任意の写真を表示したり、児童どうして自由

に画像を見合ったりすることもできる。

◎友だちの見つけた「美しいもの」を知って、感じたことや気づいたことは、ありますか。

「美しいもの」に対する児童の感じ方や気づきなどを共有することにより、美しさを感じる視野を広げさせていく発問である。

まず、友達と「美しいもの」について伝え合った感想を聞く。発表の際は、誰のどんな美しいものを見て、どのように感じたのか具体的に話させる。友達の見つけた「美しいもの」を電子黒板等に映し出しながら発表させる。

友達が、自分と同じところに美しさを感じてくれたことにより、美しいと感じる心に自信をもつ。異なる視点からの意見でも、視野を広げることができる。ただし、友達の「美しいもの」の非難にならないように注意する。

展開例の発問①と同様に、ここでもクラスのICT環境を活用して交流するとよい。

つなげよう

人によって「美しい」と感じるものが、ちがうよね。目に見えない「美しいもの」もあるんじゃないかな。

ここまでの発問で、人によって「美しい」と感じるものが異なることに気づかせてきた。この発問により、さらに「美しさ」を感じる対象を広げる。ここではまず、目には見えない「美しいもの」という問いかけで、じっくりと考えさせる。

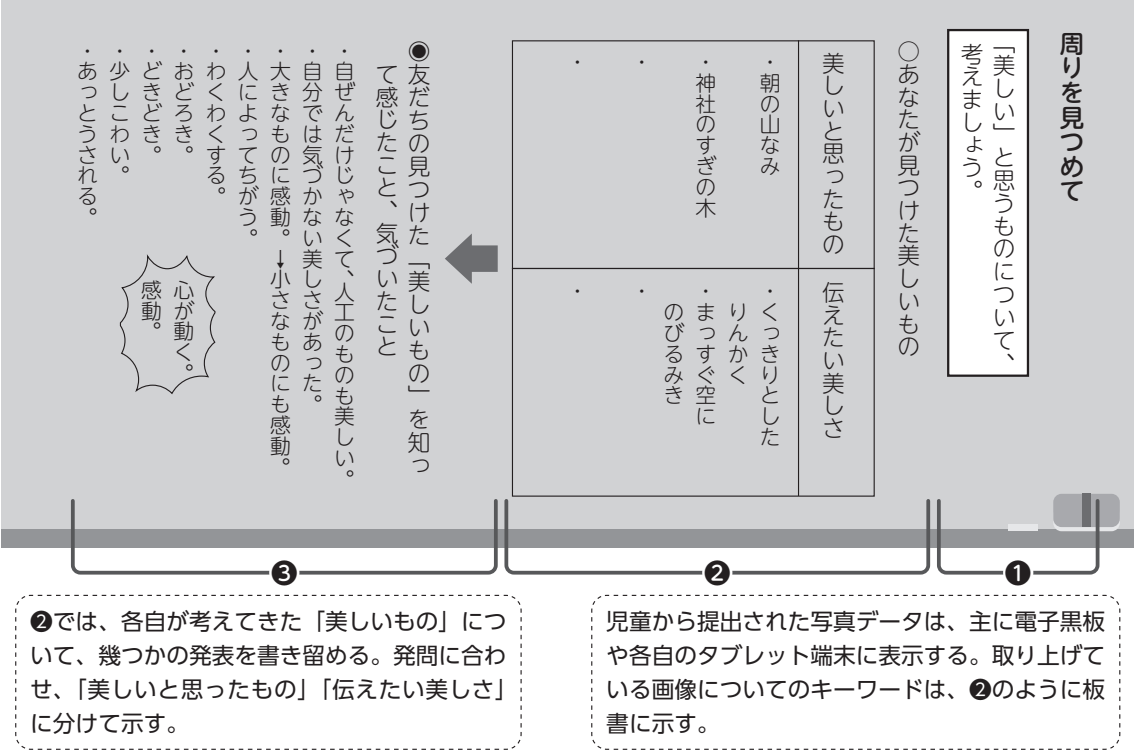
他の教育活動や現代的な課題等との関わり

・図画工作科

授業の展開例

	学習活動（主な発問と予想される児童の反応）	指導上の留意点
事前学習	▶「学びのじゅんぴ」に取り組む。 ○毎日の生活の中で、「美しいな。」「きれいだな。」「すごいな。」と思うものを探してみましょう。 見つけたものを書いておきましょう。	●主体的な学び 自分の日常生活の中から美しいと感じるものを見つけておくことで、自分事として考えられるようにする。 ◀端末活用▶ 端末等のカメラを活用して、「美しいもの」の写真を撮らせておく。可能ならば、事前にデータで提出させ、共有フォルダに入れておく。
1	▶これまでに「美しい」と感じた経験を振り返る。 ○これまでに、どんなものを「美しい」と思ったことがありますか？ ・夏休みに家族で訪れた海。 ・通学路の坂の上から見る夕焼け。 考えよう・話し合おう 美しいと思うものについて、考えましょう。	・「学びのじゅんぴ」に書いたことでもよいので、自由に発表させ、学びのテーマにつなぐ。
2	▶「周りを見つめて」を読んで、考え、話し合う。 ①あなたが見つけた「美しいもの」を、友達と伝え合いましょう。 ①美しいと思ったものは、何ですか。 ②友達に伝えたい美しさは、どんなところですか。 ・僕が見つけた「美しいもの」は、朝の山並みです。澄んだ空気の中で、くっきりと見える輪郭が美しいと思いました。 ・私が見つけた「美しいもの」は、近所の神社の杉の木です。下に立って見上げると、まっすぐに空に向かって伸びている幹が美しいと思いました。 中心的な発問 ②友達の見つけた「美しいもの」を知って、感じたことや気づいたことは、ありますか。 ・〇〇くんが紹介した工事中のランプに雪が積もっているのは、きれいだと思った。 ・山や海など大きなものに心を動かされることが多いみたい。 ・自然ばかりでなく、ビルなど人間のつくったものでも美しく感じる。 ・自分では、気づかない美しさがあった。 （補助発問）みんなの「美しいもの」を見て、「美しい」とはどういうことだと思いましたか。 ・心を動かすもの。 ・人によって違っていいい。	・美しいと感じたものを伝えたり、写真を見合ったりするだけでなく、思いや考えを交流するように促す。 ◀端末活用▶ 端末等を使用した交流は、以下のような方法がある。ICT環境や、クラスの実態に応じて、適宜工夫したい。 ・数人を指名し、全体に向けて電子黒板に写真を提示しながら発表させる。 ・グループに分け、各自が端末に写真を表示させて、見せ合って感想を伝え合う。 ・端末に写真を表示させ、自由に興味のある写真を見に行き、交流する。 ・写真を共有フォルダに入れ、各端末から全員の写真を閲覧可能にしておく。児童がメッセージを投稿できるようにしておくことも考えられる。 ・クラスで感じ方の多様性を共有することで、視野を広げていく。 対話的な学び それぞれの美しいものに対する意見を述べ合いながら、人によって、ものを見るとき視点が変わることや、「美しさ」そのものの価値の多様性に気づけるようにする。 ・意見が出にくい場合は、（補助発問）のように問い方を変え、「美しさ」そのものについて考えることで、児童の視野を広げていく。
3	▶「つなげよう」を読む。 ▶本時の学びを振り返る。 ○今日の学びを振り返りましょう。	・「つなげよう」については、本資料(2)ページ参照。 ・教科書巻末「学びの記録」に、「学びの記録シール」から、当てはまるものを選んで貼るように促す。

板書計画



評価の視点

本時は、美しいものに対するさまざまな感じ方や感動について考えることが中心となる。このことを、自分と友達を感じた「美しいもの」について交流することを通して考えさせる。最も重視すべき評価の視点は、「自然の美しさや人の心の気高さを感じる心の大切さについて考えているか」ということになる。学習状況を把握する主となる方法としては、中心的な発問に対する児童の発言、交流の様子、ワークシート等への記述の把握が挙げられる。

- 道徳科の特質から見た、その他の評価の視点
- ◆道徳的価値の理解 : 自然の美しさや人の心の気高さを感じる心の大切さについて考えている。
 - ◆自己を見つめる : 身の回りにある物事の、どんなところに美しさを感じているかについて、自分を見つめている。
 - ◆多面的・多角的に考える : 人が美しさを感じる対象はたくさんあり、その理由もさまざまであることに気づいている。
 - ◆自己の生き方について : 身の回りにある美しいと思うものを見つけ、それらを美しいと感じる心を大切にしていこうと考えている。

令和6年度版 小学校道徳「きみが いちばん ひかるとき」のご使用にあたって、学校図書の教科書から採択変更となりました場合、以下の教材が重複することになります。

移行措置資料（指導者用資料／児童用差し替え教材）をご用意いたしましたので、適宜ご活用くださいますようお願い申し上げます。

06版 光村図書	移行措置	理由
6年 P.94 ～ P.99 「15 手品師」	「千羽づる」に差し替える。	02版 学校図書 5年に「手品師」が掲載されており、教材が重複するため。

千羽づる

【内容項目】A 正直、誠実 【主題名】誠実に生きる

ねらい

友達との約束を破り、うそをついてごまかしてしまった南の姿などを通して、誠実に生きるにはどんな考えがあればよいのかを考えさせ、自分自身に誠実に明るい心で生活しようとする心情を育てる。

ねらいとする道徳的価値について

人間は、自分をよく見せようとしたり、自分の過ちや失敗を隠そうとしたりして、うそを言ったり、ごまかしたりすることがある。そして、良心の呵責に耐えかねて自己嫌悪に陥ったり、暗い気分になったり、ともすれば、他者からの信頼を失ってしまったりする。こうしたことは、児童に限らず、誰もが経験したことがあるだろう。しかし、人は、このように後ろめた

行動することで、日々を明るい心で生活できると気づかせることが大切である。

授業の導入とてびきの分析

授業の導入

「誠実」って、どういう意味か、知っているかな。

「誠実」の意味は、「真心があること。真面目であること。」だが、本教材では、言うまでもなく、このような辞書上の定義を理解することが目的ではない。誠実であるとは、具体的にどのような姿かを考えることが目的である。そのために、導入で意味を確認することで、そのイメージを押さえておく。

考えよう・話し合おう

誠実に生きるには、どんな考えがあればよいのだろう。

1時間を通して考える学びのテーマである。

本教材では、自分に誠実でいられず、良心の呵責に悩む主人公を取り上げている。自らの経験を踏まえ、主人公の気持ちを共感的に捉えながら、考えを深めさせたい。

●熱が出て、つるが折れなかったと言ったとき、南は、どんなことを思っていたでしょう。

鶴が折れなかった理由をどうしても話せず、思わずうそをついてごまかしてしまったときの、南の心情を捉えさせる発問である。

児童にも南のように、悪いとわかっていながらも、自分の過ちを隠そうとしてうそを言ったり、ごまかしたりした経験があるはずである。そのときの気持ちや感じたことを想起させながら、南の思いを想像させたい。

●だまっていれば分らないのに、南は、どうしてなやんでいるのでしょうか。

学びのテーマである、誠実に生きるためには、どんな考えがあればよいのかを、南の立場から考えさせるための発問である。

自分の非をごまかすことに成功しているものの、南は、鶴を折れなかった訳を正直に話すかどうかを悩み続けている。差し替え教材P.1左側の1・2コマ目では、明人と菜保が、それぞれ折り紙が苦手だったり、レストランでの食事に誘われたりしているにも関わらず、和花のための折り鶴を折っていることがわかる。それに対して、南は、自分のしたいことを優先して鶴を折れなかったことから、後ろめたさを抱えていることを押さえられるとよい。たとえ、うそやごまかしが相手にばれなかったとしても、自分の心がもやもやとしてしまい、明るい心で生活できなくなってしまうことを捉えさせる。

また、自分が南の立場ならどうするかを投げかけ、児童に考えさせてもよい。このとき、「正直に謝る」などの意見だけが出る場合には、「正直に言ったら、明人と菜保はどんな気持ちにな

るかな。ずるいと言われないかな。」と、素直に謝ることの難しさを感じさせることが大切である。このように、正直で誠実にいることの難しさから考えさせることも可能である。

●誠実に生きるには、どんな考えが大切なのでしょう。

本時の学習をもとに、誠実に生きるために大切な考えを、児童一人一人に考えさせるための発問である。

児童はここまで、南の姿を通して、自分自身の経験についても振り返っているはずである。これから自分は、どのように誠実に生きていきたいか、そのためにどのような考えをもっていきたいのかを呼びかけ、考えることを促す。

つなげよう

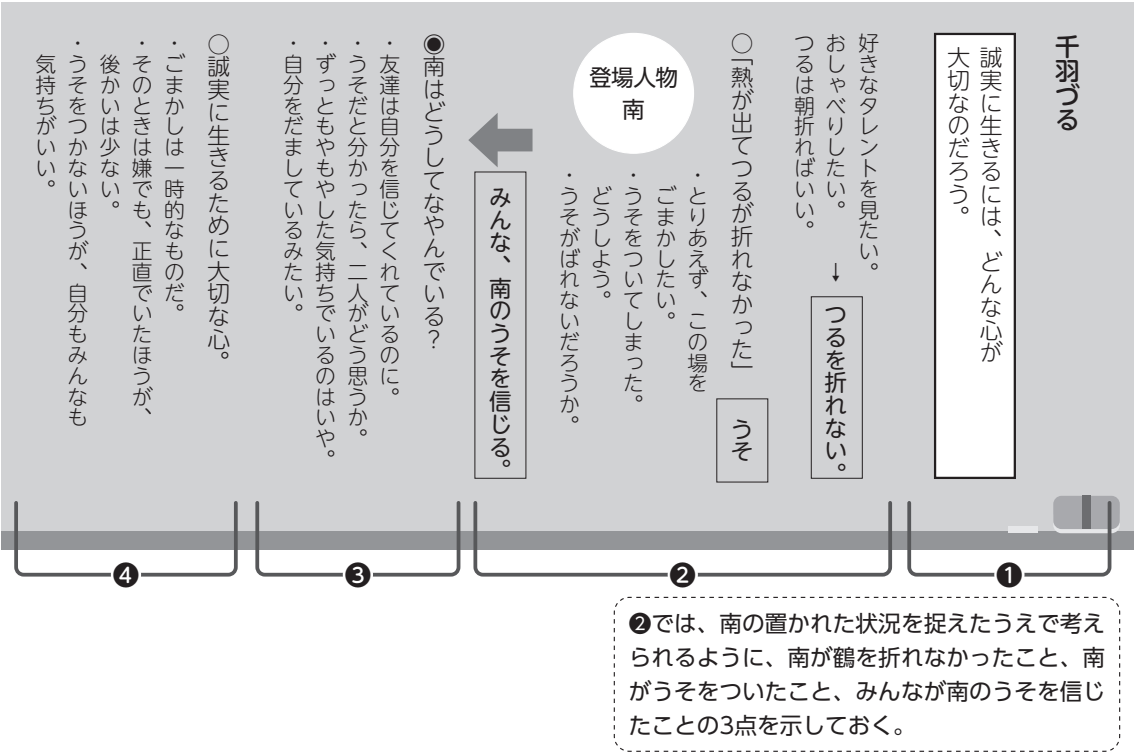
うそをつくのはいけないと分かっているのに、人はなぜ、うそをついてしまうときがあるのかな。

人間理解の観点から、「A 正直、誠実」について考えさせるための投げかけである。本時の学習から、明るい心で生活するためには、うそをつかないほうがよいということを、児童は十分に理解できただろう。しかし、それでも人は、うそをついてしまうものである。そういった弱さが人間にはあることを認め、本時の学習が机上の空論で終わらないようにする。

授業の展開例

	学習活動（主な発問と予想される児童の反応）	指導上の留意点
1	▶「誠実」の意味を確認する。 ○「誠実」とはどういう意味か、知っていますか。 ・知っている。「正直」と似ている。 ・辞書には、「真心があること」や「真面目であること」と載っている。 考えよう・話し合おう 誠実に生きるには、どんな考えがあればよいのだろう。	・「誠実」の辞書的な意味「真心があること。真面目であること。」を確認する。この抽象的な言葉が、具体的にはどういうことなのかを、教材を通して考えていくことを伝える。
2	▶「千羽づる」を読んで、話し合う。 ①熱が出て、鶴が折れなかったと言ったとき、南は、どんなことを思っていたでしょう。 ・とりあえず、この場をごまかしたい。 ・本当のことを言ったら、みんなに責められそう。 ・折り紙が苦手な明人も、ちゃんと折ってきたから、本当のことを言い出しにくい。 ・うそをついてしまった、どうしよう。 ・うそがばれないだろうか。 中心的な発問 ②黙っていればわからないのに、南は、どうして悩んでいるのでしょう。 ・みんなは、私のうそを信じて、鶴を折るのを手伝ってくれた。だましていると思うと苦しい。 ・うそだとわかったら、みんなにどう思われるか不安。でも、うそをついたままでは、自分の気持ちがすっきりしない。 ・自分がついたうそで、私はこんなにもやもやしている。この気持ちを抱えたままでいいのか。 ・正直に言えないのは、友達だけでなく、自分の心をだましているみたいだ。 ③誠実に生きるには、どんな考えが大切なのでしょう。 ・ごまかしは、その場のしのぎにしかないという考え。 ・ごまかしたほうが、そのときは楽だけど、正直でいたほうが後悔はしないという考え。 ・自分が後でもやもやしない選択をする。そのほうが、自分もみんなも気持ちがいい。	・考えさせたい場面は、差し替え教材P.2左側の3コマ目にある。支援を要する児童などには、コマを指示したうえで考えさせるとよい。 ・鶴を折らなかったことへの後ろめたさがありつつも、自分の非をごまかすために南がうそをついたことを押さえる。 ・自分の非をごまかしてしまったことを、友達に対する申し訳なさだけでなく、自分自身に対する自責の念や後悔の側面からも捉えさせる。 - 主体的な学び 南と同じように、うそをついたことで、相手に対してはもちろんのこと、自分自身に対しても後ろめたい気持ちにさいなまれた経験がないかを投げかけ、南と自分を照らし合わせて考えさせる。 - 発問②と同様に、南と似たような経験がないかを想起させながら、ごまかそうとする気持ちを乗り越えるためには、どのような考えがあればよいかを考えさせる。 - 対話的な学び 言葉のうえでは理想的な考えが出てくるだろうが、グループで話し合い、お互いの意見について質問等を重ねて行くことで、表面的な考えにとどまらないようにする。
3	▶「つなげよう」を読む。 ○うそをつくのはいけないとわかっているのに、人はなぜ、うそをついてしまうときがあるのでしょうか。 ▶本時の学びを振り返る。 ○今日の学びを振り返りましょう。	・「つなげよう」については、本資料(2)ページを参照。 ・教科書の巻末「学びの記録」の一言感想の欄に、考えたことを書くように促す。

板書計画



本時の指導では、「誠実に生きるには、どんな考えがあればよいのか。」を考えさせることが中心となる。そこで、主人公の南に自我関与させ、黙っていればわからないのに、南が、どうして悩んでいるのかを中心的な発問で問うている。よって、最も重視すべき評価の視点は、「自分自身に誠実に明るい心で生活することの大切さについて考えているか。」ということになる。

こうした学習の状況を把握する主な方法としては、中心的な発問に対する児童の発言、発言に対する問い返しへの応答、ワークシートなどの記述、グループによる話し合いの状況の把握が挙げられる。

道徳科の特質から見た、その他の評価の視点

- ◆道徳的価値の理解 : 明るい心で生活していくためには、うそや偽りなく誠実に生きていくことが大切であるということについて考えている。
- ◆自己を見つめる : 誠実であることが大切なのはわかっているのに、そうできなかった経験がないかと、自分を見つめている。
- ◆多面的・多角的に考える : 誠実でいたいと願うことと、実際に誠実ではいられなくなってしまうことの両面から、誠実に生きることの大切さと難しさについて考えている。
- ◆自己の生き方について : これから、自分自身に誠実であるために、どんな心を大切にすればよいのかを深める 考えている。